

2050年カーボンニュートラルの目標に向け我が国のエネルギー政策もさらにブラシュアップのシナリオを探り始めています。再生可能エネルギーの有力候補、太陽光、風力を基本とした基本指針が現実的に動こうとしています。第6次基本計画見直しの中でも太陽光に関して再見直しがかかるなか、海洋に降り注ぐ割合が地球全体の約7割を占めること、我が国のEEZ（排他的経済水域）の面積が広大であることから、風力発電とともに、太陽光発電の洋上への展開も期待され、これらの発電装置や設置設備の設置、維持管理において各種センサの果たす役割が大きくなると考えられます。

そこで、再生可能エネルギーの動向、特に、世界の洋上風力発電事情、風力発電設備のメンテナンスに使用される各種センサ、高効率太陽光パネルについてご講演いただき、海洋再生可能エネルギーに関するパネルディスカッションを行います。

（企画担当：栗山敏秀）

■日時：2022年5月26日（木）13:00～17:00 オンライン開催
5月31日（火）～6月14日（火）オンデマンド配信

■場所：オンライン開催

■主催：一般社団法人 次世代センサ協議会

プログラム

※プログラムはやむを得ず変更になる場合があります。

13:00～13:05	開会の挨拶 次世代センサ協議会 理事 海洋計測センサ技術研究会 代表 別府達郎
13:05-13:55	洋上風力発電の概要ならびに世界の動向と日本の状況 洋上風力発電の概要や世界の動向と日本の状況を紹介し、幅広い視点から解説する。 長崎大学海洋未来イノベーション機構 コーディネーター 織田洋一氏
14:00-14:50	風力発電設備の運用におけるセンサの役割 風力発電設備の運用について、点検や不具合対応、遠隔監視など、風車運用業務の全般を紹介する。センサは風車運用において欠かせないものであり、風車内のセンサ利活用の状況の説明とともに、今後の期待が高まっている洋上風力発電におけるセンサ利活用についても概説する。最後に、センサとセンサを用いたモニタリングシステム（SCADA、CMSなど）の課題とあり方について考えたい。 株式会社北拓 朴仕益氏
14:50-15:05	休憩
15:05-15:55	高効率太陽電池の研究開発とグリーン水素生成への応用 従来の太陽電池に比べて約2倍の光電気変換効率を有するIII-V族化合物半導体太陽電池の研究開発状況について述べるとともに、高い変換効率を活用した再生可能エネルギー水素生成の実例について紹介する。また同電池の軽量・フレキシブル性がもたらす自動車、海洋応用の可能性についても論じたい。 東京大学工学系研究科電気系工学専攻教授 中野義昭氏
16:00-16:50	パネルディスカッション パネラー：海洋計測センサ技術研究会 会員他
16:50-16:55	閉会の挨拶 次世代センサ協議会会長 小林 彬 氏

■協賛：（一社）電気学会、（公社）計測自動制御学会、（一社）日本電気計測器工業会、センシング技術応用研究会、（一財）マイクロマシンセンター、（一社）日本計量機器工業連合会、（特非）安全工学会、MEMSパークコンソーシアム、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、enPiT-Pro スマートエスイー、センサエキスポジャパン（依頼予定）

■参加費：次世代センサ協議会会員／5,000円 協賛団体会員／10,000円 一般／16,000円（テキスト代、消費税込）、学生／無料（但し、レポート提出のこと）

※一般の方で、次世代センサ協議会の個人会員（年会費8,000円）になられる場合は、今回より次世代センサ協議会会員参加費が適用されます。是非この機会にご入会をご検討ください。入会に関する詳細はホームページよりご確認ください。

■申込方法：事前登録制となっておりますので、参加ご希望の方は下記ホームページよりお申込みください。

参加者には受付受領メールをお送りします。参加費は請求書(pdf)をお送りしますので、指定銀行に振り込み願います。

■参加方法：参加者には、資料をダウンロードいただきます。開催当日までに視聴用URLをメールでお知らせします。オンデマンド参加の方には配信開始初日までにURLをお知らせします。視聴される方は申込みされた方一人に限ります。資料の転送は固くお断りします。

[お申込みはこちらから](#)